

わがまちの

たく

巧み

この「トナリ」では、地域に根付いている伝統工芸や地域ならではの活動をされているみなさんを紹介していきます。

島根県産のオリジナル トルコギキョウの栽培

今月は、掛合町穴見地区にお住まいで、トルコギキョウの育種やアルストロメリアなどのハウス栽培をされている別木重夫さんを紹介いたします。



しまね県産ブランド

「島根県花き生産者協議会」会長でもある別木さんは、農園経営のほかにも、「島根の花振興協議会」のメンバーとして、県内花きのPR活動や生産技術の提供など花き生産の振興にも携わられています。別木さんの育種（品種改良）により、島根県産のオリジナルトルコギキョウが固定化され、現在も新たな品種が生み出されています。そして、島根の花として、市場へ出荷されています。

土づくりの重要性

花きに限らず米や野菜を栽培をするうえで、施肥や深耕、排水整備などの土づくりは重要です。別木さんのハウスは約65ha。このハウス内で栽培されるアルストロメリアは、地下120cm以上にまで根をはります。そのため、150cm以上の深耕と十分な施肥が必要です。

別木さんは「植物にとって理想的な土づくりは、多くの効果を得ることが出来ます。この土づくり（根域づくり）は、しっかりとした根を張り、花きの品質と収量に大きな変化をもたらす。灌水を



無くすなどの相乗効果による総体的なコストダウンにつながる。など農業経営するうえでも、とても重要なものだと考えます。」と話してくれました。

ものづくりから

農業経営へ

別木さんは市場の動向を分析した出荷やコストを考慮した生産による花き栽培をされています。そのため、作業の合い間には、経済関係の雑誌を読んだり、インターネットを利用した経済学講座を受講したりす

るなど、マーケティングや農業経営について学ばれています。

「農業は高齢化過疎化など多くの問題を抱えています。悪い点もプラス面にして、その地域でしかできないやり方（アイデア）で続けていかなければならないと思います。そのためにも、ものづくりだけでなく、流通・販売やデー



こんにちは、**保健師**です。

17

暑い夏に突入しました。熱中症にご注意ください。

熱中症とは...

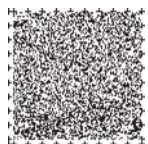
体内の水分や塩分のバランスが崩れ、暑さにより体温の調節がうまくいかなることで起こります。重度の場合は死に至ることもあるので、予防に努めましょう。

予防策は...

熱中症になる前の予防が重要です。普段の生活において、ちよつと気をつけることで、予防できます。

暑さを避けましょう

屋外では日陰を見つけて、直射



SPコードとは音声読み上げ用のバーコードです。このコードを専用装置で読み取ること、記録された情報を音声に変換することができます。

日光を避けましょう。

日傘・帽子も有効です。

服装を工夫しましょう

「COOL BIZ」(涼しく快適に過ごせる服装)を実行しましょう。下着も吸水性に優れた素材を選びましょう。

水分を補給しましょう

こまめに水分をとりましょう。(ただし、治療中の方は水分摂取について主治医に相談しましょう。)

この日が過る前に水分を補給する

「寝る前・枕元にも水分を」「外出前・運動前に水分を」「アルコールには要注意」アルコールは尿の量を増やし、逆に体内の水分を排泄する(利尿作用)ため、汗で失われた水分をアルコールでは補給できません。

急に暑くなる日は、特に注意しましょう

暑さに慣れてくるまでは、注意が必要です。梅雨明けの暑くなりはじめや、急な猛暑、熱帯夜の翌日など気温が急上昇する可能性があるときはご注意ください。

毎日の健康管理が大切です

健康な人でも、寝不足、欠食、水分不足だったりすると、熱中症になりやすいです。まずは、規則正しい生活を心がけましょう。

子ども・高齢者はより注意が必要です!!



こんな時どうしたらいいの?

めまい・大量の汗(初期)・頭痛・体のだるさ・高い体温・まったく汗をかかなくなるなど、症状は様々で、症状が出ないこともありま。熱中症を疑った時は、直ちに対応しましょう。

- ①涼しい場所へ移動しましょう。
- ②衣服を脱がせて、水をかけたり、うちわ等で扇いだりして体を冷やしましょう。水囊があれば、首・脇の下・足の付け根にあてると効果的です。
- ③水分と塩分の補給を

スポーツドリンクが最適です。(ただし呼びかけや刺激に対する応答がおかしい場合は口からの摂取は禁物です。)
④医療機関へ運ぶことも：自力で水分を摂取できない場合は、救急で医療機関へ搬送します。

いきいき雲南

平成の大合併も一段落し、市町村数はこれまでの三、三〇〇余から一、八〇〇余へと激減しました。こうした合併は、西日本で多く行われ西高東低の状況となっていますが、地方の自治体数が少なくなった状況は島根県の自治体数が59から21になったことから実感できると思います。地方の衰退が著しく、そうした流れを止めるための平成の大合併でもあり地方自らの活性化努力が必要なのはもちろんですが、道路特定財源の問題、新型交付税等地方をさらに疲弊させる施策には断固反対する声をしっかりと打ち出さなければなりません。

しかしながら、そうした地方の声を発すべき首長の数、議員数が少なくなっている現実があります。それだけに、高速道路の整備、一般国道、県道の改良、歩道の設置、上下水道の普及等生活基盤の整備について都会と地方の整備率を比較し、地方の劣っている現状と都会並まで整備するのどのくらいかの年数を要するのか(これも10年以上はかかる)を示す等これまで以上に工夫を凝らした説得力が求められます。

(雲南市長 速水雄一)



6月28日のまちづくり会議の際